

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

動画で自らの学びを振り返る

滋賀大学教育学部附属中学校

井上 哲志

はじめに

文部科学省のGIGAスクール構想により、一人一台の端末が生徒に行き渡ることになった。今後、一昨年度末のように全国一斉休校のような措置がとられる可能性は低いと思っているが、そういった最悪の事態も想定しながら私たちは端末の授業への活用を試していかなければならないと考えている。

本校では、Windowsタブレットを配備してもらい、授業で活用している。活用の目的は大きく分けると三つある。

一つは、従来ならPCルームで行っていたインターネットでの調査学習やプレゼンテーションの作成である。

次に、Teamsの掲示板機能を使った教材の共有と、生徒と教師とが双方向に意見を交流することである。

最後に、Class Notebookと思考ツールを使った交流結果のまとめと発表である。

本稿では、Teamsの掲示板機能を使った実践と、Class Notebookを使った実践を紹介しようと考えている。

ている。それぞれ、Windowsタブレットを導入している学校ならすぐにでも実践に移すことができると考えている。

実践事例Ⅰ(令和三年四月実施)

授業で取り組んだ討論会の動画を視聴し、学習の振り返りに活用した例

(1) 具体的な内容

- ・ 討論会の動画を撮影する。
- ・ 撮影した動画をTeamsにアップロードする。

生徒はそれを各自の端末で視聴し、立論や引用資料の確かさ、表現の工夫など、各自の視点で学習を振り返り、要旨に記入する。

(2) 効果

討論者・司

会・聴衆と、それぞれの立場でメモを取りながら討論に臨んだが、音声言語による活動の振り返りは、それだけでは難しい



く、このように動画の記録を用いたことで、生徒は細部まで自らの学びを確認することができた。

また、生徒は自分たちの活動する様子が教材になったからか、意欲的に動画を視聴しながら学習の振り返りに取り組んでいた。

(3) 課題

本実践では、生徒が自らの学びを振り返ることのためにのみ、動画を共有した。しかし、スピーチャプレゼンテーション、対話や討論など、様々な活動を録画しておいて、教材化することで、例えば次のような学習が可能になると考えられる。(全て「問い」の形で示した。)

- ・ 共感を得る話し方とはどのようなものか。
- ・ 司会をする際にはどのようなことに気をつけなければならないか。
- ・ よい質問とはどのようなものか。
- ・ わかりやすく伝えるためにはどのような工夫ができるか。
- ・ 論理的に話すとは、どのように話すことか。

動画を視聴し、先に示したような問いを投げかけ、出された意見をKJ法を使って分類することで、生徒は言語活動という経験を通して学んだことを他の場面でも活用可能な形、つまり、概念的な知識として身に付けることができるのではないだろうか。

この方法は、生徒が各々の端末で再生するため、必要なところを必要だけ視聴して確認することができるという利点がある。また、複雑な編集も必要ないため、生徒による実演の直後に動画をアップロードして視聴し、課題を探るような使い方をするなど、他にもよい活用の仕方がありそうである。

現在、私自身は授業動画、教材等をアップし、欠席生徒への学習保障にTeamsの掲示板機能を活用しているところである。

※単元の学びを振り返ろう

① キーワード まとめる	② キーワード つなぐ
<p>① 具体的な内容</p> <p>6人で1つの主張をするときに、「まとめる」作業が一番大変なように感じます。6つの資料をいかに上手に組み合わせ、分かりやすく矛盾がない、そして主張、理由と証拠が揃ったような構成にするか、毎時間とても悩んでいました。1人1人自分が調べたことを自分が話し、発表に向けてまとめるという簡単な作業でも、6人がやるのであればそれぞれが全く別の方向へ話を展開するかも知れないので、大変な作業だということに気がきました。この「まとめる」という作業を複数の人の資料から行うときは、まず調べる段階で全員が発表の完成イメージを持つことで、少し苦労も減るのではないかと感じました。</p>	<p>② 具体的な内容</p> <p>論理的な意見を組み立てることが、相手に納得してもらえる重要なことだと考え、7人1組のグループを築き、PSの理由と証拠が揃って満足していましたが、環境グループの討論会を見てみると、根拠だけでなく「論理的」な発表は出来ないという気がしました。もちろん、理由に合致しないものがあると誤解力が増えると思います。でも、「論理的」という為には言葉と理由のつながり、主題(テーマ)と主張のつながり、前提(前提)のつながり、結論(結論)があると考えました。そのつながりがはっきりしていたグループの発表は理解しやすかった。やはりつながりは大切だと感じました。</p>
<p>③ 学習を通して身に付いた力・発揮した力</p> <p>意見をまとめる力 必要だと感じることを簡潔にまとめる力</p> <p>論理的な構成を考える力</p>	<p>● 学んだことを生かせそうな場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科の考察 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 実験結果などの根拠を基に、いえることを考え、自分なりにまとめるから。 ・ 社会の「問い」に対する予想 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 時代背景や用語など、自分が知っている根拠から予想を展開させるから。 ・ プレゼンテーション→自分の意見を分かりやすく、伝わりやすく伝えることが大切だと思えるから。
<p>④ 理解が足りなかったこととその対策</p> <p>上手に思考ツールを活用できなかった</p> <p>→ 思考を広げる、まとめる時に「なんなりルール」が使えるのかを知り、授業やBTの中で使えるような場面があれば積極的に使うことで活用するに慣れていく。</p>	

【編集部がつぎやき】

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって以来、現地から伝えられる惨状に、日々胸を痛めています。核兵器の使用をちらつかせるロシアと西側諸国によるぎりぎりの外交が繰り返されています。「独裁国家」と言われる国との対話の難しさを痛感する毎日です。

国家間の外交における「対話」は非常に難易度の高いものですが、一般市民である私たちにもできることはあるはずで、互いを理解し、尊重し合う。日々の「対話」を積み重ねて、そんな世の中を作っていくことが大切なのだと、実感しています。(編集部：目次)

秀学社 国語科 LINE公式アカウント
コクカフェ

▼役立つ情報を配信します。
ぜひご登録ください。

